

NAKAS・URBAN・SQUARE

アーバン・スクエアとは・・・

都市中心部において、公園ではなく人々が集い・語らい・出会い・交流し、時にはイベントを行ったりすることが出来る賑わいの自由空間(都市型賑わい広場)と位置づけます。

I.日本のアーバン・スクエア(都市型賑わい広場)の成り立ち

1. アーバン・スクエア(都市型賑わい広場)の歴史は・・・

都市型賑わい広場の起源は、古代ギリシアの都市国家（ポリス）の中心につくられた広場「アゴラ」agoraに求められます。アゴラとは「アゴラゾ（集まる）」を語源にしたもので、周辺に神殿や役所が建ち並び、市が立ち、人々が多数集まっていました。集まった人々は出会いを喜び、歓談したり、意見を闘わせたりして、この広場を戸外での生活の場の一部に組み入れていたが、なにか事があると広場は政治的集会の場ともなりました。古代ローマ時代、広場は「フォルム」と呼ばれましたが、古代ギリシア時代と同様、市民経済生活の中心をなす市場であり、民会の議場であり、祭りや催しの場であり、人々が日常的にたむろして時を過ごす場所でした。この古代ギリシア・ローマの伝統は、中世ヨーロッパの都市にも受け継がれていきます。王宮、役所、寺院、裁判所などが広場を囲んで建てられ、市が立ったり、祭りが行われたりする一方、軍隊の勢ぞろいするまちの中心の場ともなりました。17世紀以後は、建築技術と庭園技術が導入され、広場は都市の「顔」としてますます華麗壯大化しました。外国から訪れた者たちは、とくに中央広場をみた印象で、その国の国力や文化水準を計り、そこに住む人々は広場の華麗壯大さで自分たちの都市や国家や文化の隆盛を誇示したのです。「日本大百科全書(ニッポニカ)の解説から抜粋」

2. 日本のアーバン・スクエアの歴史は・・・

近世の日本のまちの多くは、西洋のまちのように広場の賑わいを中心に形成されているまちではなく、領主の拠点であった天守閣を核として、街路が幾重にもあり、まち空間が重なる「城下町」の形態で形成され、広小路などの街路やまちの中を流れる川の河原がその時々のニーズに合せ、沿線に露店が建ち並び賑わいを醸し出すなど「広場化」し、コミュニケーションをとる、日本独特の構造となっていたことから、「日本のまちは、広場から形成されているのではなく、小路から成り立っている。」とよく表現されます。

明治以降、都市づくりにも西洋の概念と技術が導入され、シンボリックな街路や公園等と共に広場もまた近世の都市空間になかったものとして導入されましたが、人々の日常空間に浸透することはなかったと聞きます。

現代は、モータリゼーションの進展により都市部の街路が自動車中心の施設となり、広場ほとんど姿を消し、駅前広場として存続している状況が、多く見られます。



図一福岡城下・博多・近隣古図(三奈木黒田家文章 423)
出典：「古地図のなかの福岡・博多」宮崎克則



図一博多駅(駅前広場) 出典：Yahoo 画像

II.福岡のアーバン・スクエアの現状

1. 現代のアーバン・スクエアは・・・

広場として存続している駅前広場も少し前までは、タクシーやバスとの乗り継ぎ交通広場としての機能が主体で、人が集い・交流するスペースなどは確保されている駅前広場は少ないものでした。

しかし近年は、まちなかでの人々の憩いや交流の場「アーバン・スクエア」の機能を有した駅前広場として再整備され、博多駅前広場や金沢駅前広場のように賑わっているところをよく目にするようになりました。

一方、その他の広場として有名な広場(駅前広場を除く)は、東京の「新宿 歩行者天国」、大阪の「道頓堀」、名古屋の「100m道路」、札幌の「大通り公園」などがよく話題に挙げられます。



図一博多駅(駅前広場)出典：Yahoo 画像

これら有名な「アーバン・スクエア」は、どの広場をみても元々は、都市内の道路や河川として整備された場所であり、その車道部や河川沿いの場所を広場として利用しているもので、近世城下町の広小路などの街路やまちの中を流れる川の河原の「広場化」と同じ形態で形成されていると思われます。

この状況は、「日本のまちは、広場から形成されているのではなく、小路から成り立っている。」といわれる考え方が現在にも脈々と生き続けているともと考えられます。



図一折尾駅(駅前広場)出典：Yahoo 画像



図一金沢駅(駅前広場)出典：Yahoo 画像

新宿 歩行者天国

A=15,000 m²

- ・メインの新宿通りのみ
- ・延べL=600m



大阪 道頓堀

A=43,200 m²

- ・どうとんぼりリバーウォーク
- ・延べL=2.7km
水辺整備事業の整備区間



名古屋 100m道路

A=91,000 m²

- ・メインの公園部分
- ・延べL=1.3km
W=70m



札幌 大通り公園

A=78,900 m²

- ・テレビ塔を除く西1丁目~12丁目
- ・延べL=1.5km



出典：Yahoo 画像

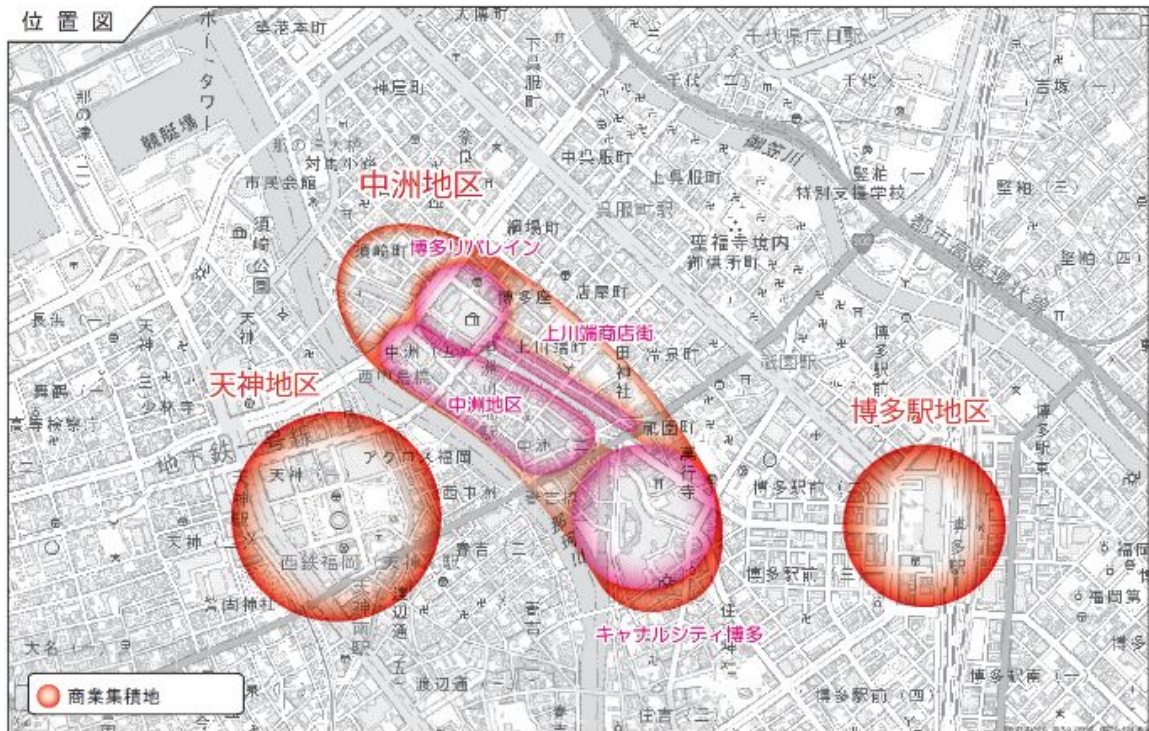
II.福岡のアーバン・スクエアの現状

2. 福岡市のアーバン・スクエアは・・・

では、福岡市のアーバン・スクエアはどうでしょう。

福岡市には、市民が多く集まる大規模商業施設が集積しているエリアとして、「天神地区」と「博多駅地区」及び博多リバレインからキャナル・シティや上川端通り(上川端商店街)、西日本一の歓楽街を含めた「中洲地区」の3つのエリアがあります。

この3地区についてのアーバン・スクエア整備の状況は、次のとおりです。



図一商業集積地位置図

○ 天神地区

アーバン・スクエアではありませんが、天神中央公園や警固公園(A=11,382㎡)などアーバン・スクエアに代わる規模の大きな都市公園が大規模商業施設の間にあり、市民に思い思いに利用されたり、イベント等もよく開かれています。

天神地区 天神中央公園

A=31,000㎡
・都市公園面積、
迎賓館・福博で
あい橋含む



○ 博多駅地区

九州新幹線開業にあわせ、博多駅前広場が平成23年に再整備され、人々が出会い・集い・賑わう広場空間として新たに作られ、待ち合わせ場所やイベント会場及び飾り追いの展示場所として利用されています。

博多駅地区 博多駅前広場

A=10,000㎡
・駅前広場スペース
全体面積
A=15,000㎡



出典：Yahoo 画像

Ⅱ.福岡のアーバン・スクエアの現状

○ 中洲地区

人が集まる賑わい空間として、中洲大通り（夜だけ？）や上川端通り（上川端商店街）があり、人が集まる賑わい施設として博多リバレイン、キャナル・シティなどがあり、「天神地区」や「博多駅地区」にも負けないエリアです。

しかし、「天神地区」の公園や「博多駅地区」の駅前広場のように、ある程度の規模を持ったオープンなアーバン・スクエア的な施設や公園は存在しません。

また、当該地区は、多くの建物が密集して建築されているため、アーバン・スクエア的機能を有した空間を新たに整備するための空地や大きな公園もない状況です。

こうした状況から、中洲祭りや中洲 JAZZ などを開催する際は、中洲大通りを通行止めにしたりにして仮設ステージにて対応しています。



図一上川端商店街 出典：Yahoo 画像



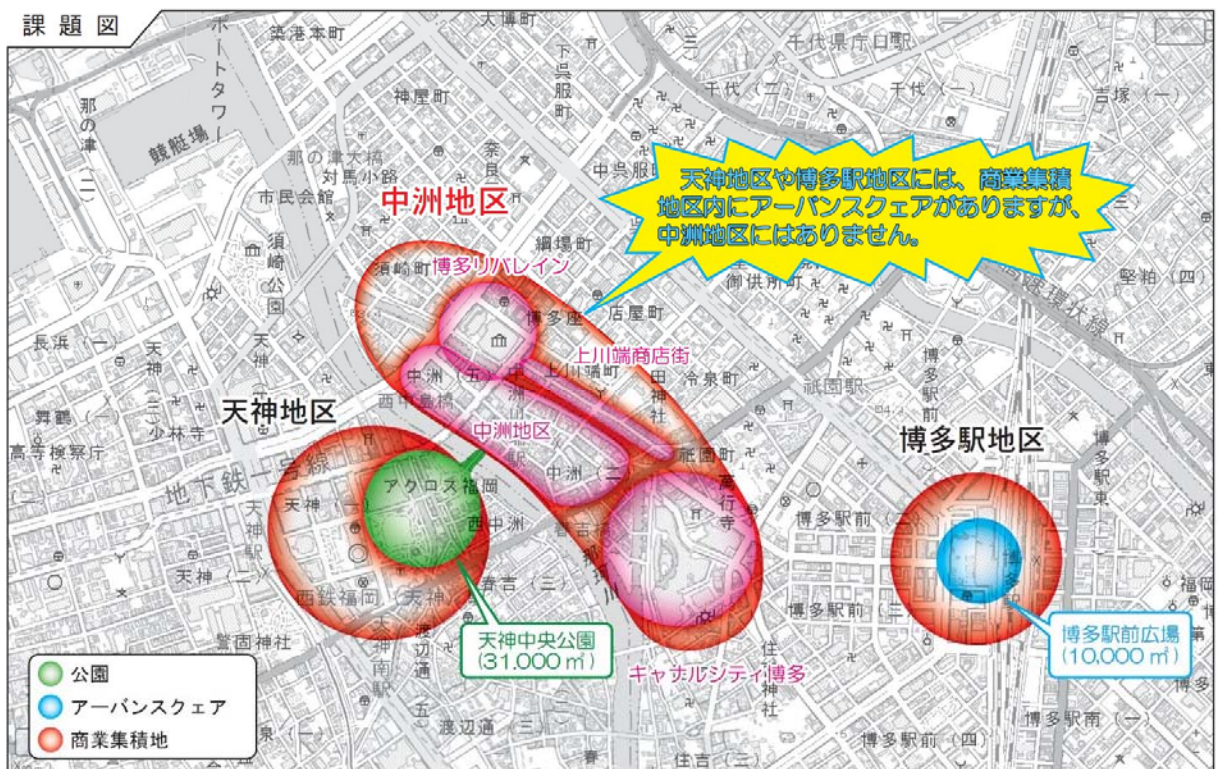
図一中洲大通り 出典：Yahoo 画像



図一キャナル・シティ 出典：Yahoo 画像



図一博多リバレイン 出典：Yahoo 画像



図一中洲地区課題図

Ⅲ.NAKAS・SQUARE の提案

1. 中洲地区に「アーバン・スクエア」を作ろう！！

中洲地区には、アーバン・スクエアを整備するだけの空間が無く、賑わい空間が周辺道路にまでにじみ出しているところもあり、都市型賑わい広場として、アーバン・スクエアは必要と考えます。

中洲地区でのアーバン・スクエア用地確保については、前記した全国的に有名なアーバン・スクエアの道路や河川沿いの「広場化」の考え方を取り入れ、「那珂川」と「博多川」の2つの河川に着目しました(道路の広場化については、広場化に対応することができる道路が周辺に無いことから、土地利用的に困難)。

なお、福岡市には、他の大都市にあるような都市内の道路や河川を活用したアーバン・スクエアはありません。



図－中洲河川位置図出典：Yahoo 画像

(1) 河川の状況

■ 那珂川

- ・中洲と天神地区の間を流れる河川
- ・河川沿いの「屋台」と川面に移る「ネオン」の夜景写真がよくメディアに取り上げられ、河川沿いは活用中
- ・洪水流下機能を有し治水上重要な河川で、河川区域を公共空間として利用することは困難
- ・河川沿いの屋台利用が限界?????

■ 博多川

- ・中洲と博多地区の間を流れる河川で両岸に遊歩道が整備
- ・博多座の歌舞伎講演で「船乗り込み」が行われた時には見物客が集まるが、それ以外、昼間は人通りも少ない状況
- ・洪水流下機能は有するものの、その役割は小さいことから河川区域を公共空間として有効利用することは可能
- ・上川端商店街(上川端通り)と並行する位置にあり、上川端商店街と一体となり中洲地区の中で軸の役割を担う
- ・昭和50年代にモータリゼーションの進展にともない、中洲地区中心部に集中する自動車の駐車場確保のため、玉屋デパート前の河道部左岸に河道の約1/3程度を覆うように蓋をし、駐車場として利用した経緯あり

Ⅲ.NAKAS・SQUARE の提案

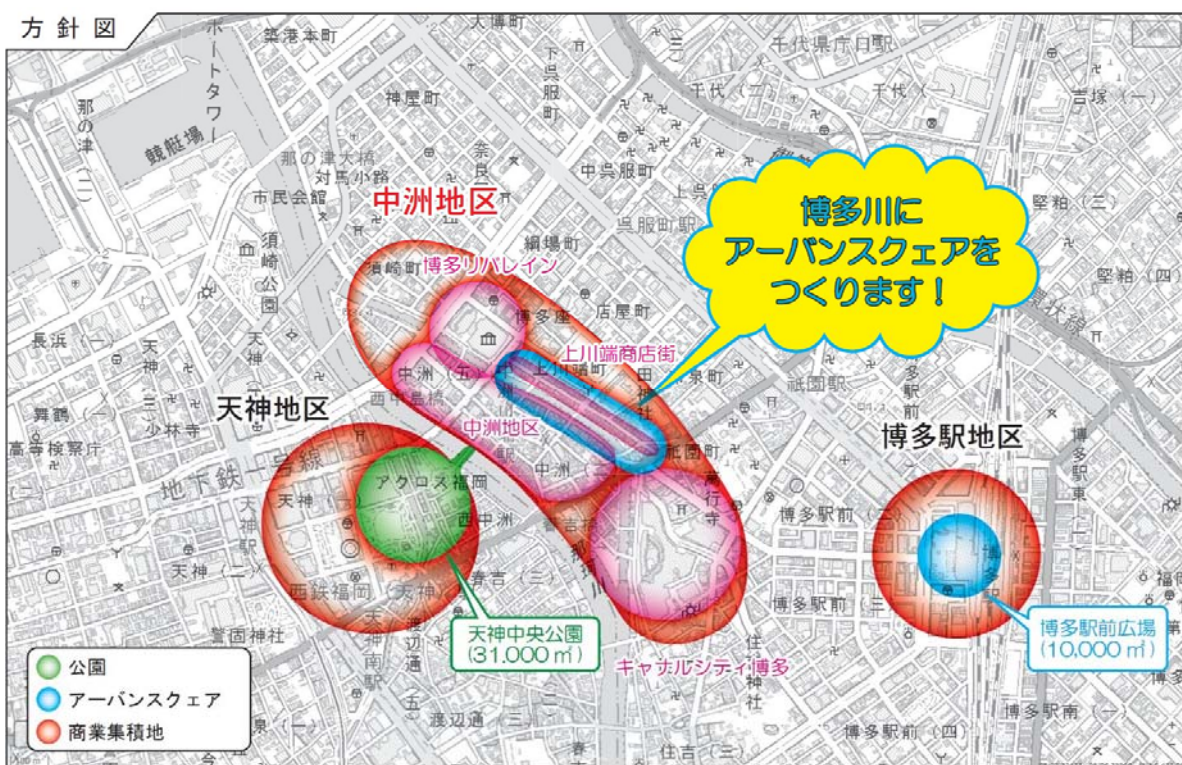
(2) 広場化の方向性

前述の「那珂川」と「博多川」の状況から、「博多川」において「広場化」の用地確保を図ることとします。

中洲・上川端の中心軸に位置する「博多川」を中洲地区の賑わい創出空間とし、今まで福岡市には無かった「広場化」によるアーバン・スクエア

「NAKAS・SQUARE」

をしてつくります。



図一 中洲地区整備方針図

Ⅲ.NAKAS・SQUAREの提案

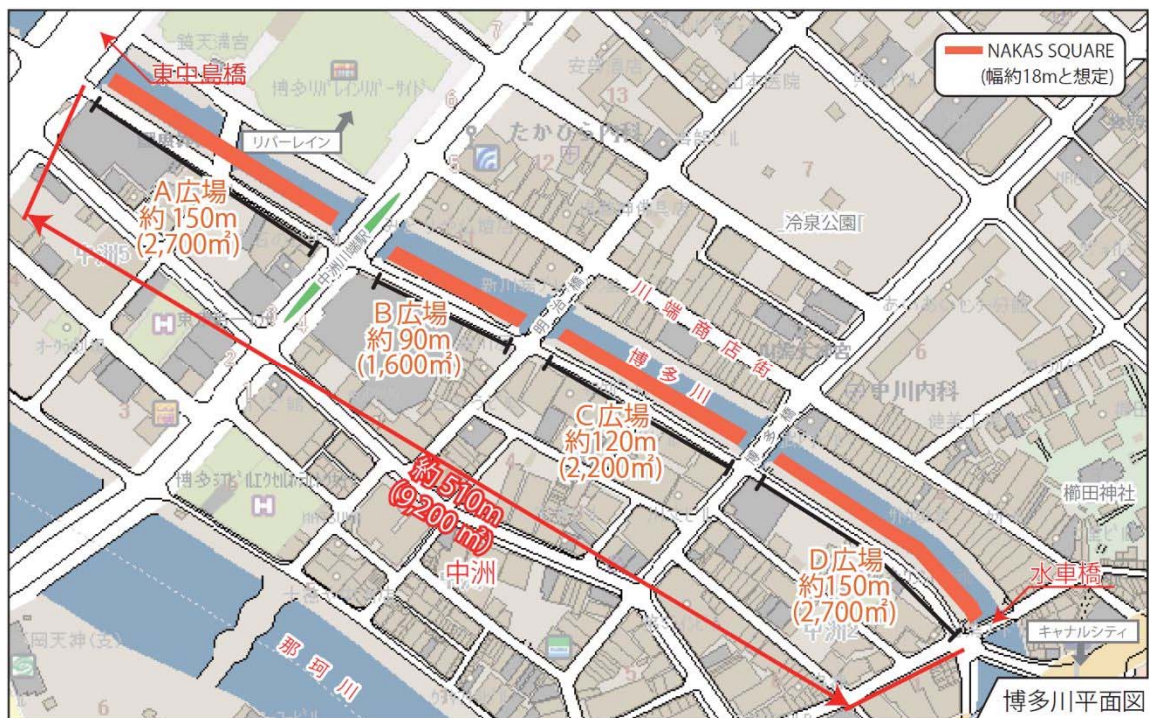
2. NAKAS・SQUAREの作り方

「NAKAS・SQUARE」は、昭和50年代の蓋懸け駐車場と同様に、博多川の上に蓋を懸けて、広場部分をつくります。

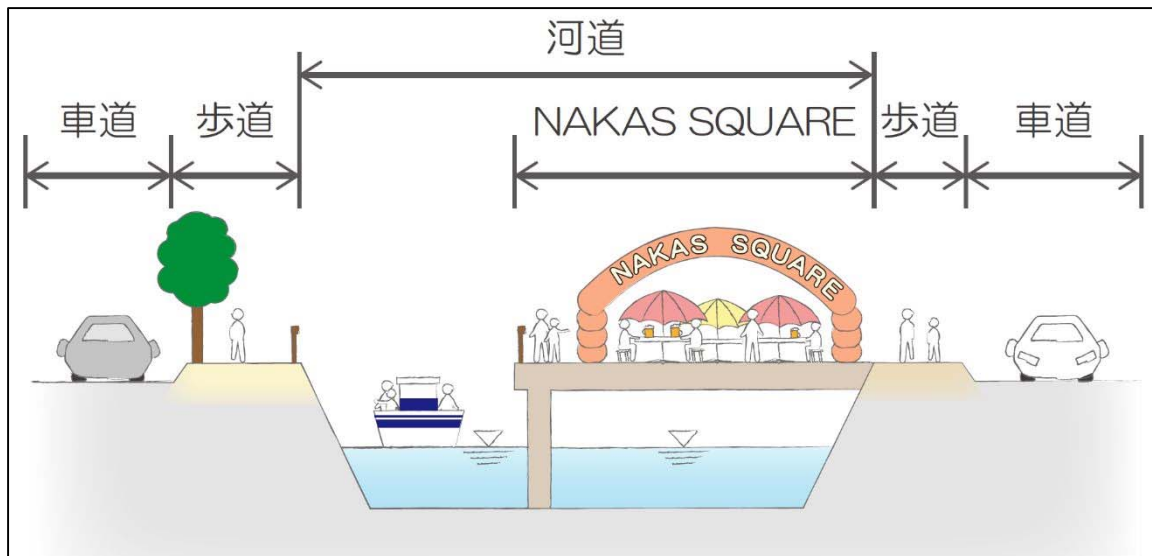
広場の整備規模は、博多川の河道幅、歌舞伎講演時の「船乗り込み」が開かれること、また、上川端商店街と中洲との連携を考慮して、左岸側に約18m幅で蓋を懸けて用地確保を行うこととします。

整備区間は、キャナル・シティから博多リバーライン間、中洲地区で比較的人通りが多いと想定される水車橋から東中島橋の間約510mとし、AからDの4つの広場で「NAKAS・SQUARE」を構成させます。

したがって、「NAKAS・SQUARE」の面積は約9,200㎡となり、博多駅前広場（交通広場を除く）とほぼ、同等の広場空間を確保できることとなります。



図一博多川整備区間図



図一博多川整備断面図

Ⅲ.NAKAS・SQUARE の提案

3. NAKAS・SQUARE の活用方法

「NAKAS・SQUARE」の活用方法のコンセプトは、「いつも賑わい元気なまち・中洲の創造」とし、そのために、次の 3つの活用 を考えます。

① 都市の朝の魅力、博多川の魅力向上

・中洲朝カフェの設置

都心の朝の魅力、博多川の朝の魅力向上のため朝カフェを設置、4つの広場を週代わりで移動し、異なったコンセプトで変化を持たせ、いつ来ても新しい都心の朝の魅力を発見できる場とします。



市場風景
出典：Yahoo 画像

② 中洲歓楽街との相乗効果

・ビアガーデンの設置

夏季の時期に開催、4つの広場毎に異なるビールメーカーのビアガーデンを設置し、一定期間で広場のローテーションを行います。ビールメーカーは、A社・K社・SP社・ST社など大手から地ビール会社などが参加します。お客は、チケット制で移動が自由に行え、テースティングが行える方式とします。但し、広場の大きさに限界があるので入場者規制を行います。



ビアガーデン風景

出典：Yahoo 画像

③ 中洲地区の地域連携

・地域催事スペースとして活用

朝市や夕市、骨董市、蚤の市、フリーマーケット、B1 グルメ大会、中洲祭りやJAZZ会場、せいもん払い会場、イルミネーション会場(Xマスなど)など、地域や季節毎の祭事会場として利用し、いつでも元気なまち、中洲地区の賑わい拠点とします。



イルミネーション風景

出典：Yahoo 画像

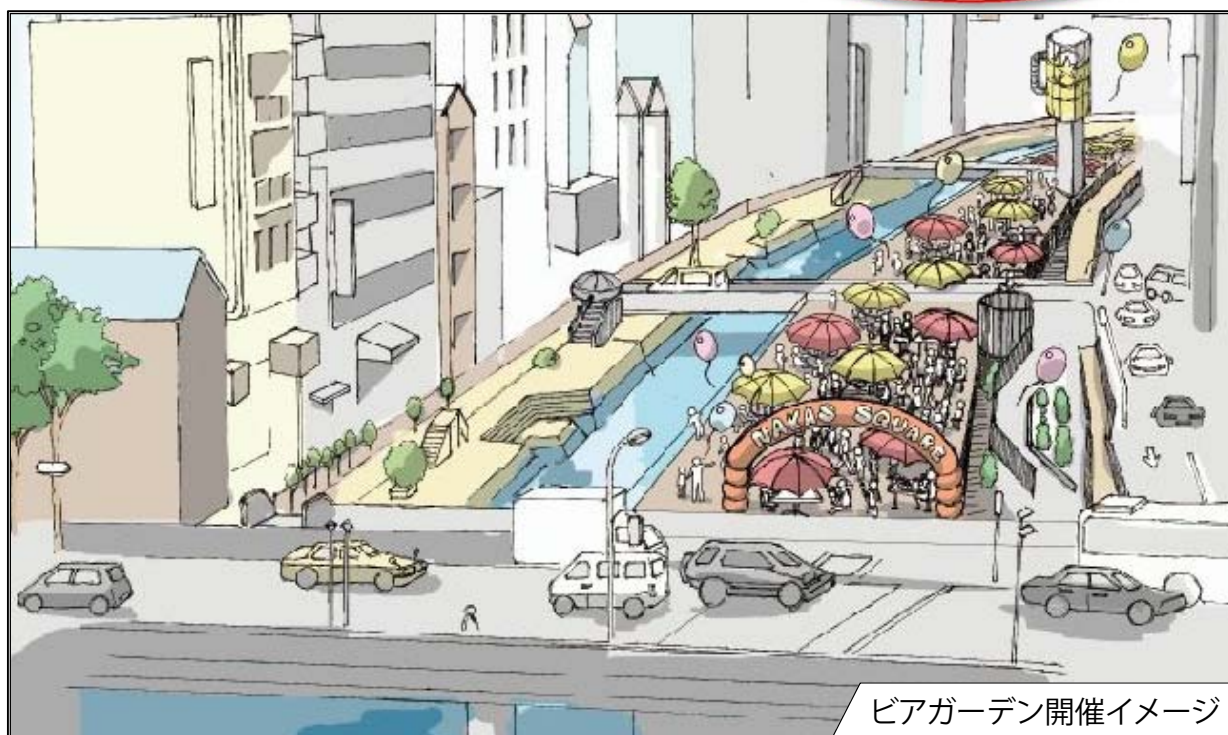
Ⅲ.NAKAS・SQUARE の提案

「NAKAS・SQUARE」は、

中洲地区の活性化と再生を図り、

天神地区や博多駅地区と共に、

元気なまち福岡の創造に寄与します！！



ビアガーデン開催イメージ

【参考資料】

- ・日本大百科全書(ニッポニカ)の解説
- ・日建設計総合研究所 コラム「都市のバリューを考える」
- ・「まちなかの再生と広場のデザインー日本都市における広場論ー」(香川大学 西成准教授)
- ・歴史から読み解く日本の都市の特徴 (東京大学大学院 西村教授)
- ・古地図についてー九州文化史所蔵の福岡城下図ー (記録資料館九州文化史資料部 梶嶋政司)
- ・Yahoo 画像